

## 【注意喚起】狂犬病による死者の発生について

2026年2月18日

(ポイント)

- ・タイ保健省の発表によれば、1月25日、ラヨーン県において狂犬病による死者が発生しました。
- ・狂犬病は、未だにアジアやアフリカを中心として、世界中の多くの国で発生していますが、発症した場合には、有効な治療法がなく、ほぼ 100%の患者が死に至ります。
- ・海外においては、むやみに動物に近づかない等、感染を避けるために十分注意してください。

(本文)

### 1 感染源

狂犬病は、主に狂犬病に感染した動物に咬まれたり、引っ搔かれたりするなどしてウイルスが傷口から体内に侵入することにより感染します。

感染動物は、イヌに限りません。全ての哺乳類が感染することが知られており、アメリカやヨーロッパでは、キツネ、アライグマ、スカンク、コウモリなどの野生動物からの感染が見られています。また、稀にウイルスを含んだエアロゾルの吸入によっても感染することがあります。

### 2 症状

狂犬病の潜伏期間は、一般的には1か月から3か月ですが、咬まれた部位(侵入箇所)やウイルス量などの要因により、1週間未満から1年以上と幅があります。

狂犬病の初期症状としては、発熱、食欲不振、傷口の痛みや痒みなどがあり、ウイルスが中枢神経系に広がるにつれ、脳と脊髄に、進行性で致命的な炎症を起こします。

その後、強い不安感、一時的な錯乱、水を見たり風に当たると首(頸部)の筋肉がけいれんする恐水症や恐風症、高熱、麻痺、運動失調、全身けいれんが起り、呼吸器障害などの症状を示し、死亡します。

### 3 予防策

感染しないためには、むやみにイヌやネコ、ウシをはじめ野生動物に近づいたり接触したりしないことが重要です。ペットにも注意が必要です。

また、国外において、サイクリングやキャンプ、農村地域での活動などを行う方、近くに医療機関がない地域で長期間滞在する方、感染の可能性がある動物との接触が避けられない業務に従事する方などを始め、狂犬病の流行地域へ渡航する方は、渡航前のワクチン接種を受けることが勧められています。

### 4 動物に咬まれるなどした場合の対応

狂犬病は、一旦発症すれば効果的な治療法はなく、ほぼ 100%の方が亡くなります。

感染動物に咬まれるなどして感染した後でも、ワクチンを連続して接種することにより発症を防ぐことができます。

動物に咬まれるなどした場合には、すぐに少なくとも 15 分間、水と石けんで傷口を洗浄し、早期に医療機関を受診してください。

狂犬病に感染した疑いがある場合には、できるだけ早期に狂犬病ワクチンの接種を受ける必要があります。これは暴露前のワクチン接種を行っている場合でも同様ですので、医師とよく相談してください。

なお、海外で狂犬病に感染した疑いがあるものの、医療機関を受診できずに帰国した場合にも、帰国後直ちに最寄りの保健所や医療機関に相談してください。

#### 【問い合わせ先】

○在タイ日本国大使館領事部

電話: (66-2) 207-8500、696-3000

所在地: 177 Witthayu Road, Lumpini, Pathum Wan, Bangkok 10330

(ウイタユ通り、ルンピニー警察署と MRT ルンピニー駅のほぼ中間)